

千種生活圏の拠点づくりの考え方 (初稿)

※千種生活圏のイメージ画像

平成 30 年 月

注意）本計画の内容は確定したものではありません。今後も変更が
あります。あくまでも委員会で議論するための資料です。

もくじ

I はじめに	2	IV 生活圏の拠点の役割と機能	10
1 計画の趣旨と目的		1 生活圏の拠点づくりの基本要素	
2 他の計画との関連性		2 拠点づくりに向けた取組	
3 計画の策定体制		3 取組推進に向けたコンセプト	
II 千種町域の概要	5	V 拠点施設の機能	14
1 地域の概要		1 拠点施設周辺と既存施設の現状	
2 人口動態		2 拠点施設の整備方法の比較	
		3 機能の集約・複合化と分散化	
III 千種生活圏の将来像	7	4 (仮称)千種市民協働センターの整備	
1 生活圏の拠点			
2 生活圏の魅力と課題		VI 取組のスケジュール	20
		■ 資料編	21
		1 千種生活圏の拠点づくり検討委員会会議録	
		2 視察記録(鳥取県西伯郡南部町・島根県松江市八雲地域)	

I はじめに

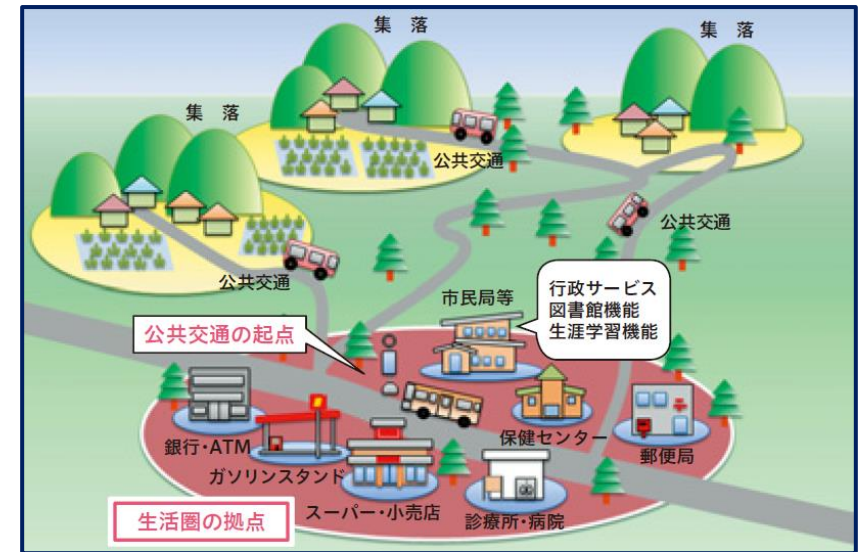
1 計画の趣旨と目的

現在、我が国では東京への一極集中を背景に、地域の人口減少・少子高齢化が深刻な事態を迎えています。そのような中、穴粟市では平成 27 年 12 月に「森林から創まる地域創生」をテーマとして、穴粟市地域創生総合戦略を策定し、さらに昨年 11 月には 3 つのアクションプランを策定して、様々な人口減少対策の具体化を進めています。

その中の一つに「森林から創まる生活圏の拠点づくり」があります。これは町域を一つの“生活圏”と捉え、その中に、生活に必要な様々な機能が集まった“拠点”をつくと共に、公共交通や情報通信などのネットワークを駆使して、将来にわたって地域の利便性や賑わいを確保し、さらには地域活力の向上を図ることを目的として、取組を進めるものです。

この計画は、その更なる具体化に向けた一歩として、千種町域での「生活圏の拠点づくり」に関する具体的な方策を定めることを目的とするものです。

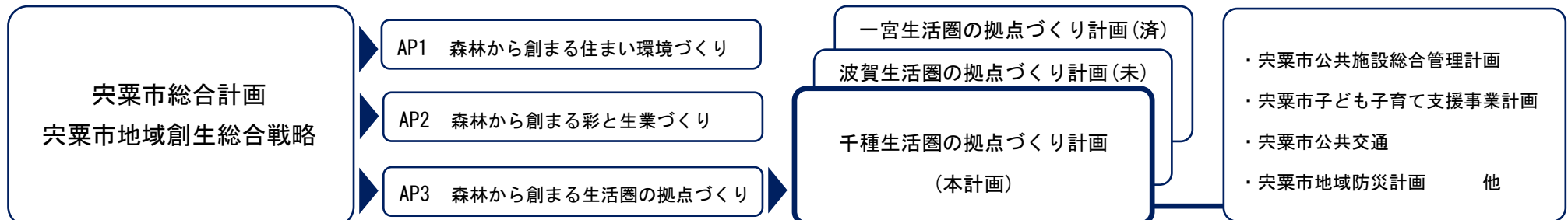
■ 穴粟市生活圏ネットワークのイメージ



出典：穴粟市総合計画

2 他の計画との関連性

この計画と他の穴粟市の各種計画の関連性は下図のとおりです。特に他の 2 つの「穴粟市地域創生総合戦略アクションプラン」や「穴粟市公共施設総合管理計画」との整合を図りながら取組を進めます。一宮町域ではすでに計画を策定しており、本計画の策定後、波賀町域でも同様の計画を策定します。



■ 関連する計画等

名称	期間	目的/概要
穴栗市総合計画	H28-37	穴栗市の最上位計画として、市政全般にわたる施策を体系的・網羅的に整理。 現行の第2次総合計画では特に、人口減少対策を最重要課題として位置づけると共に、将来の地域構造として生活圏ネットワークの構築を明記。
穴栗市地域創生総合戦略	H27-31	「森林から創まる地域創生」をテーマに掲げ、人口減少対策の取組を【住む】【働く】【生み育てる】【まちの魅力】の4つの観点から整理。選択と集中により取組の更なる重点化と加速化を図るため、以下の3つのアクションプランを策定。
AP1 森林から創まる 住まい環境づくり	H29-	人口流出の抑制に向けたダム機能の強化を念頭に、若者。子育て世代にとって魅力ある住環境・子育て環境の整備を促進する。
AP2 森林から創まる 彩と生業づくり	H29-	地域の特性に合った農林漁業や商工業の営み(生業)によって、地域の風景(彩)の価値を高め、それらが地域の中で新たな生業に繋がってゆく好循環を生み出し、“日本一の風景街道”を創造する。
AP3 森林から創まる 生活圏の拠点づくり	H29-	将来的な人口減少が見込まれる中であっても、地域の中で生活の利便性や賑わいを確保し、さらには地域活力の向上を図ることを目的として、“生活圏の拠点づくり”を行う。この計画の根幹を成す考え方。
穴栗市公共施設等総合管理計画	H28-37	将来に向けて安定した行政サービスを提供するための、市役所や市民局、生涯学習センターなどの公共施設等の整備に関する基本方針。公共施設の管理目標として平成37年までの9年間で公共施設の延べ床面積9%削減を設定。
穴栗市子ども子育て支援事業計画	H27-31	「子ども・子育て支援法」に基づき、一人ひとりの子どもが健やかに育ち、社会の一員として成長することの出来る環境を整備する。
穴栗市地域福祉計画	H27-31	障がいの有無や年齢、性別などにかかわらず、誰もが住み慣れた地域の中で心豊かに安心して暮らせる仕組みをつくり、持続させていくための計画
穴栗市公共交通再編計画	H27-	地域の誰もがいつまでも安心して暮らしていけること、高齢者や通勤通学者の移動手段の確保、さらには観光面での利用等を目的とした公共交通の再編計画。
穴栗市地域防災計画	H24-	穴栗市域の災害対策全般に関し、迅速な災害応急対応を図り、住民の生命、身体及び財産を災害から保護するとともに、住民が安心して暮らせる災害に強いまちづくりに資する。

3 計画の策定体制

この計画の策定に際しては地域の代表や施設利用者、子育て世代の代表や高校 PTA、地元商店街の代表者など、多様な主体の参画を得て「千種生活圏の拠点づくり検討委員会」（以下、「委員会」といいます。）を設置し、計 回にわたって活発な議論を重ねて頂きました。また、この間に拠点づくりに関連する取組への視察を行い、拠点の形成や施設の運用に関する貴重な示唆を得ることが出来ました。委員会の議事及び視察研修の記録については、巻末の資料編をご確認ください。

■ 千種生活圏の拠点づくり委員会 開催概要

会 議	開 催 日	協 議 内 容
第 1 回 検討委員会	平成 29 年 8 月 8 日	委員会の目的、地域の人口動態、地域創生総合戦略と生活圏ネットワーク構想について （参考）国土交通省「小さな拠点づくり」、一宮生活圏の拠点づくり計画について
第 2 回 検討委員会	9 月 6 日	他地域での取組事例、委員会のスケジュールについて
第 3 回 検討委員会	10 月 3 日	委員会意見の整理、勉強会（宍粟市地区コミュニティ支援員：田住 学さん）、ワークシートの作成
第 4 回 検討委員会	11 月 7 日	ワークシートの整理、講和（宍粟市社会福祉協議会：森井 ワークショップ（生活圏の拠点に必要なもの）の実施
第 5 回 検討委員会	12 月 5 日	ワークショップ（千種生活圏の拠点エリアの姿）の実施、先進地視察について
第 6 回 検討委員会 （先進地視察）	平成 30 年 1 月 15 日	鳥取県西伯郡南部町の「生涯活躍のまち構想」の実現に向けた取組と周辺整備の状況を見学 島根県松江市八雲地域の「八雲社会福祉センター・アルバホール」の施設見学
第 7 回 検討委員会	2 月 15 日	千種高校生徒からの意見と視察内容の報告、本計画の中間とりまとめ案について
第 8 回 検討委員会	3 月 14 日	エーガイヤちくさの施設見学、中間とりまとめ案に関する意見整理、策定スケジュールについて
第 9 回 検討委員会	4 月 11 日	本計画素案の整理、拠点施設の機能に関するグループ討議
第 10 回 検討委員会	5 月 9 日	
第 回	月 日	
第 回	月 日	
第 回	月 日	
第 回	月 日	

Ⅱ 千種町域の概要

1 地域概要

千種町域は穴栗市の北西部に位置し、佐用町・岡山県・鳥取県に隣接しています。面積は町域では最も小さく 104.57 km^2 で、人口は平成 17 年の合併時点で 4,023 人でしたが、市の南部にある山崎町域や市外への転出が多く、平成 30 年 3 月末時点では 2,914 人まで減少しています。高齢化率も 40%を超えており、市内でも人口減少と高齢化が顕著な地域となっています。

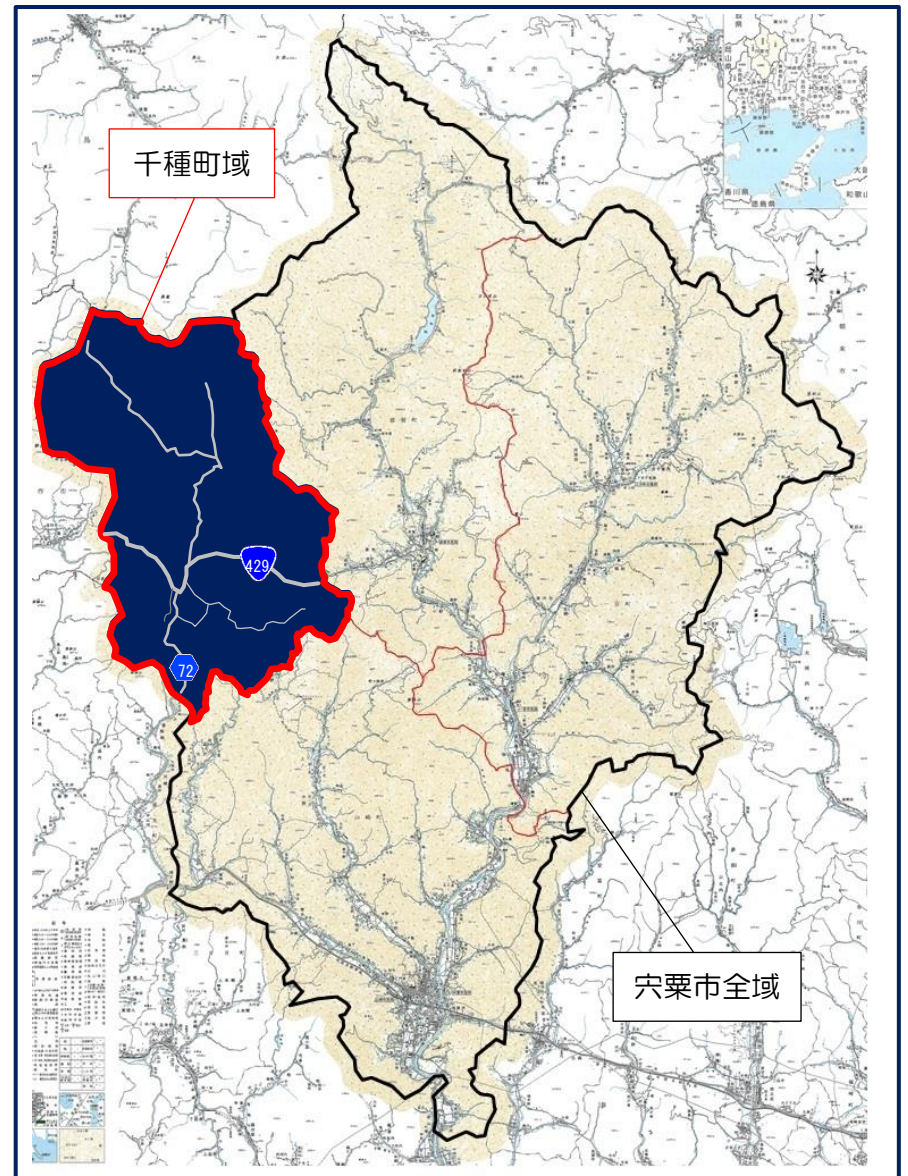
千種町域には豊かな自然や観光施設など様々な地域資源があります。なかでも日本の名水 100 選に選ばれた清流千種川や、たたら製鉄の伝統を今に伝える天児屋鉄山跡は、県内にも類を見ない貴重な地域資源です。また、スキー場やゴルフ場などのレジャー施設が立地していることも、地域の大きな特色と言えます。

加えて温泉施設やレストラン機能を備えた保健福祉センター(エーガイヤちくさ)、市内で最初に整備された認定こども園、オープンしたばかりの温水プール、ミニ図書館など施設の充実が見られます。

町域の中心には商店街があり、買い物など日常生活に必要な機能が一定の範囲にまとまって存在しています。一方で、大型のスーパーや量販店がなく、娯楽施設も少ないことから、若者や学生は休日には町域外まで出て行くことも少なくありません。

また、地域全体で子どもを守っていこうという地域性や、認定こども園や子育て支援センター機能が充実、認定こども園から地元の千種高校までの教育連携体制や少人数クラスによる手厚い指導により、良好な子育て・教育環境を備えた地域といえます。

■千種町域の位置図



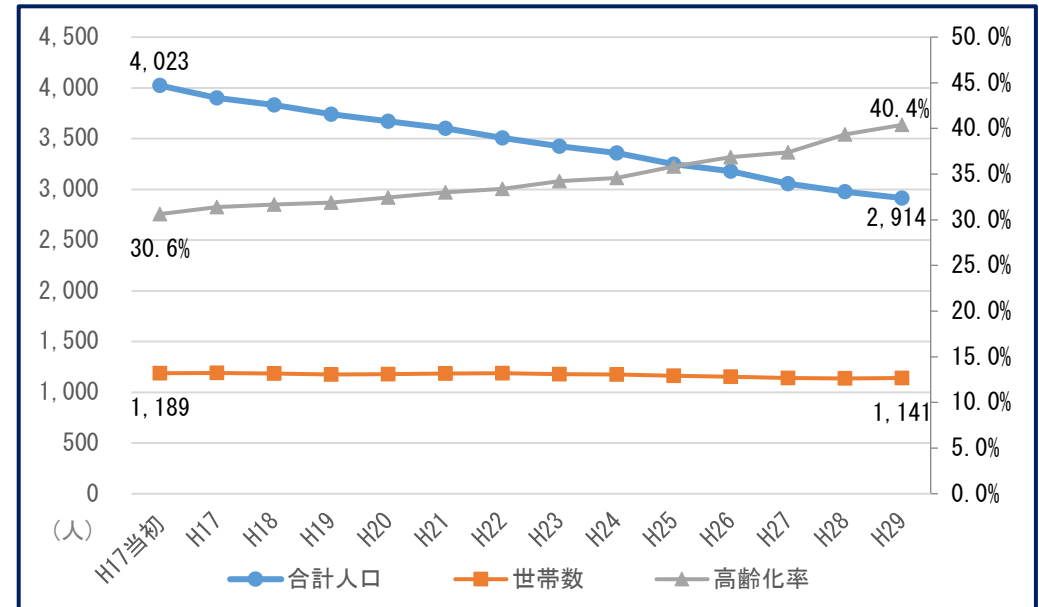
2 人口動態

千種町域の人口は昭和 25 年頃から減少傾向にあり、最近のデータでは、平成 17 年 4 月の新市発足当初に 4,023 人であった住民基本台帳による人口は、平成 29 年度末には 2,914 人まで減少しており、この 12 年間で約 28%のマイナスとなっています。

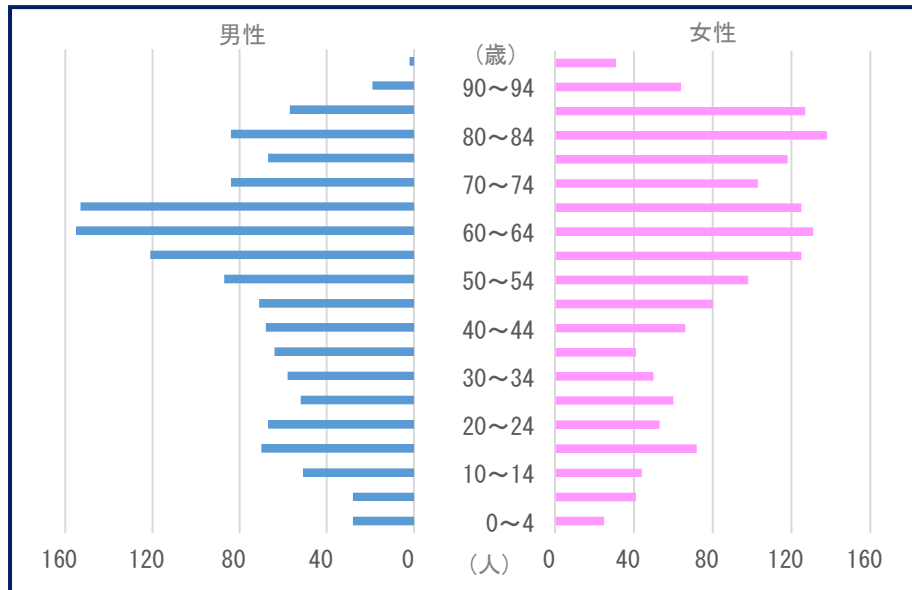
また、若者世代の転出が多く、40 代以上に比べ 30 代までの人口が少なくなっていますが、65 歳以上の高齢者の割合は、平成 17 年当初から約 10%上昇しており、核家族化が進行する中で、世帯数が減少していることから、高齢世帯が多いことが伺えます。【図表 1、2】

年度毎の動態としては自然動態、社会動態ともにマイナスが続いており、平均して毎年 90 人程度人口が減少しています。社会減の影響もありますが、若者が減少している影響から出生数が少なく、自然減の影響も大きくなっています。【図表 3】

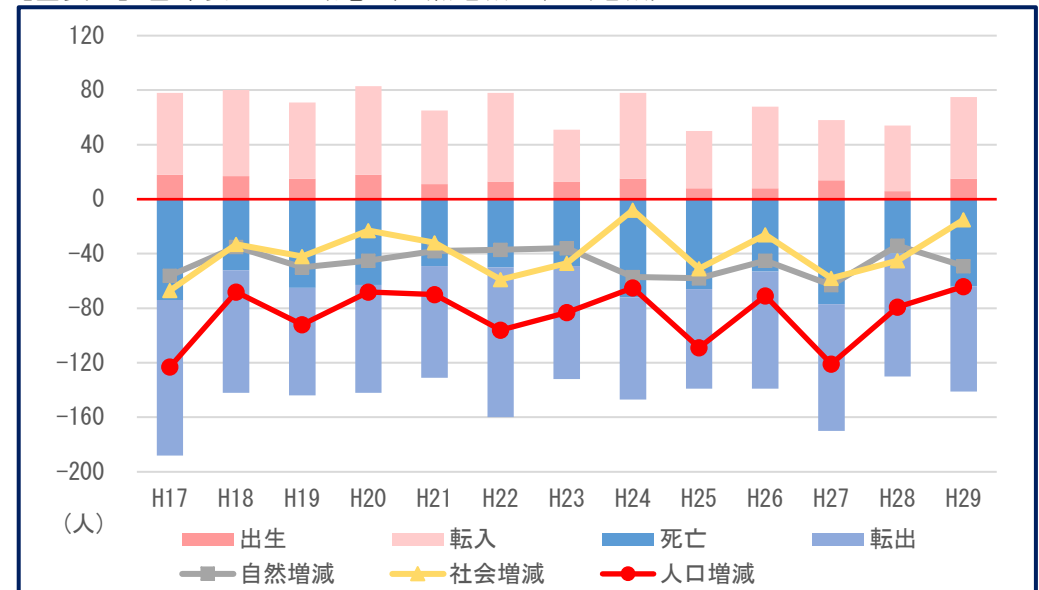
【図表 1】千種町域の人口／世帯数／高齢化率の推移



【図表 2】町域の年代別人口構成（平成 29 年度末時点）



【図表 3】各年度の人口動態（自然増減／社会増減）



Ⅲ 千種生活圏の将来像

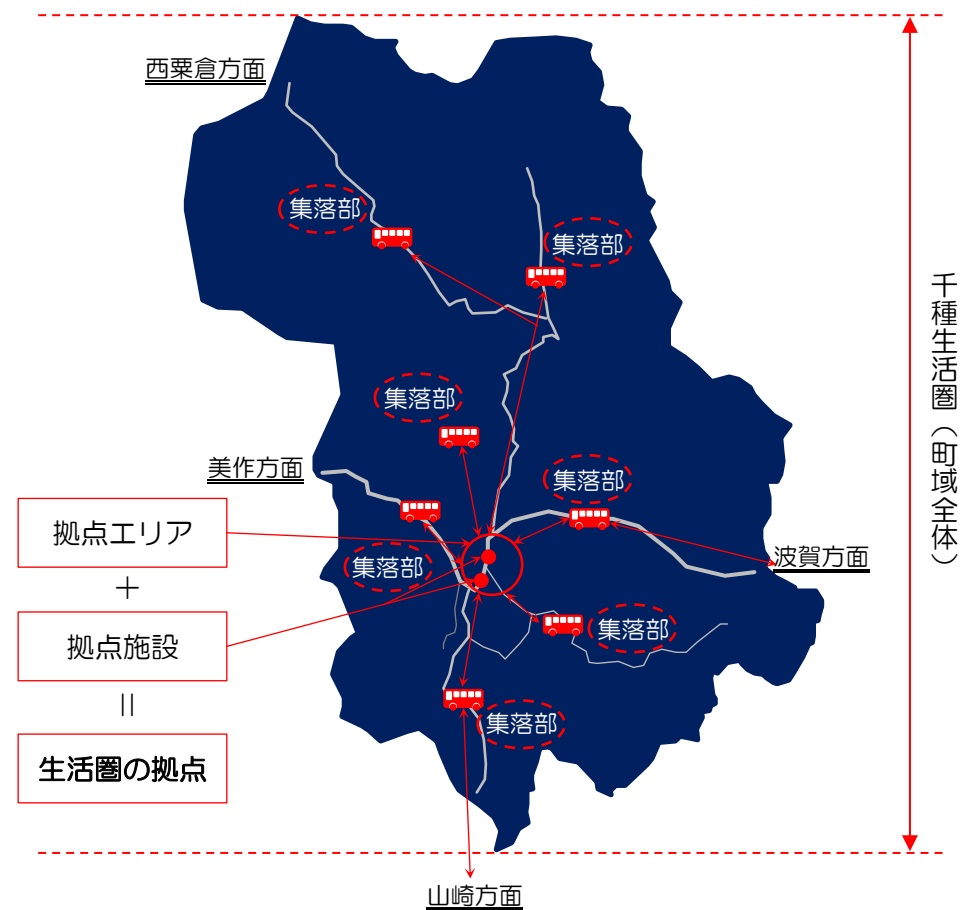
1 生活圏の拠点

「穴栗市総合計画/穴栗市地域創生総合戦略」では町域を一つの生活圏と捉え、市民局周辺を小売店舗や金融機関、医療機関、公共施設など日常生活に必要な機能を備えた「生活圏の拠点」として維持するとともに、「集落」と「生活圏の拠点」を結ぶ公共交通、物流、情報のネットワーク化により、コンパクトなエリア内で日常生活に必要な機能が確保できる生活圏ネットワークの形成をめざすこととしています。

この考え方に基づき、「千種生活圏の拠点づくり」では、千種町域全体を「千種生活圏」と捉えるとともに、すでに保健福祉の拠点として機能しているエーガイヤちくさと、日常生活に必要な機能が一定の範囲に集積している千種市民局周辺を「拠点エリア」として位置づけます。また、拠点エリアでの賑わいを確保・創出し、持続的な機能の維持を図るため、核となる拠点施設を整備するとともに、行政機能の集約によるサービスのワンストップ化など市民の利便性向上を図ることにより「生活圏の拠点」を形成します。

■ 地域を構成する用語の整理

- ①千種生活圏 = 千種町域全体
- ②拠点エリア = 千種市民局周辺を中心とする概ね 1km の範囲
- ③拠点施設 = 拠点エリアの中核となる施設
- ④生活圏の拠点 = 上記の②と③を合わせた機能



2 生活圏の魅力と課題

将来にわたって持続可能な地域を実現してゆくために、地域の「強み」を活かしていくこと、地域の「弱み」を克服していくことが地域に暮らす様々な世代の住民が安心して住み続けられる地域づくりに繋がります。「千種生活圏の拠点づくり検討委員会」におけるこれまでの議論や地元の千種高校生徒との意見交換を踏まえ、地域の「魅力（強み）」と「課題（弱み）」として、次のような点が見えてきました。

■千種生活圏の魅力（強み）

委員会での意見	魅力（強み）
○人柄があたたかく、年長者を敬う風土がある。 ○会議や研修会等の参加率が高い。 ○自分のことより人のことを心配できる田舎の人の人柄の良さがある。	① 温かい人柄・地域コミュニティ
○ゴルフやスキー場などのレジャー施設や屋内運動場を備えた温泉施設を有する。 ○新しく温水プールや図書館が整備されている。 ○商店街があるため、生活がしやすい。	② 特色があり、充実した既存施設
○日本最大級のクリンソウの群生地がある。 ○秋から冬にかけての星空が素晴らしい。 ○「日本の名水 100 選」認定の清流千種川があり、ちくさ高原の湧水もすごく美味しい。	③ 豊かな自然環境・観光資源
○先人の知恵や技術が素晴らしい。 ○木工品・竹細工・わら細工等の手仕事が生きている。 ○歴史的な価値がある「たたら製鉄」の文化が受け継がれている。	④ 地域に根付いた伝統文化
○県境の立地条件により岡山県や鳥取県との移動がしやすい。 ○田舎らしく住居が広くのびのびできる。 ○地域が安心で安全なところが良いところ。	⑤ 地理的・地形的条件
○子育て支援に携わる方々の対応や活動が素晴らしい。○地域全体で子育てをサポートする体制がある。 ○自然の中で成長していくからこそその体験・経験がある。 ○親同士のコミュニケーションがとりやすい。	⑥ 良好な子育て環境
○田舎ではあるけれども教育には力を入れている。 ○園小中高一貫教育で、進学への不安が少ない。 ○少人数クラスで学校の先生が子ども達をよく見ていてくれるのが良くわかる。 ○授業に地域の特色がある。	⑦ 魅力ある教育環境

■千種生活圏の課題（弱み）

委員会での意見	課題（弱み）
○路線バスは安価だが、便数が限られており利便性が悪い。 ○都市部への移動に時間を要する。 ○大雪時の交通が不便。 ○通過交通が少なく、千種が目的地にならなければ観光客など入ってこない。	① 交通の不便
○大型スーパーや量販店まで距離がある。 ○人口減少に伴い、既存小売店舗の撤退や縮小が懸念される。 ○地元の商店街のイメージが暗い。もっと明るいイメージにすれば利用する人も増えるのでは。	② 買い物の不便
○高齢になり車の運転が出来なくなったときのことを考えると非常に心配。 ○将来的にかなり高齢化が進んでいく。 ○公共料金が高いということは、将来に向けて不安材料。	③ 高齢者の生活不安
○若者の働く場所が限られている。 ○高校等を卒業後に市外に出ていく傾向がある。 ○交通の便が悪いため、ベッドタウンにもなりにくい。 ○少子化により中・高校で部活動が出来ない。	④ 若者の地域離れ(働く場の不足)
○周りが親戚や友人ばかりで自由に意見が言えない。 ○出役や行事の負担感が大きい。 ○地域の将来について諦めていて夢を持っていない。 ○若者のコミュニティのあり方が変わってきている。	⑤ コミュニティのマイナスイメージ
○診療所は待たずに診察してもらえるが、診療科が少ない。 ○診察時間（開いている時間）が短い。 ○子どもが急病のとき、夜間救急へ行くにも距離がある。	⑥ 地域医療の不足
○選べる習い事が少なく、子どもの友達関係も広がりが無い。 ○将来的に高校の存続が危ぶまれる。 ○公園が少なく、子どもを安心して遊ばせる場所がない。	⑦ 子育て・教育の選択肢の少なさ
○人口が減少し、空き家がどんどん増えている。 ○放置すれば倒壊する危険な家屋も問題になる。 ○商店街にも空き家が目立つようになった。景観を損ねる。	⑧ 空き家の増加

※その他にも千種生活圏の魅力（強み）や課題（弱み）について意見がでていますが、生活圏の拠点づくりにおいて主だった意見から整理しました。

Ⅳ 生活圏の拠点の役割と機能

1 生活圏の拠点づくりの基本要素

千種生活圏の拠点を形成していくためには、次の基本要素を実現していく必要があります。拠点と集落とのネットワーク化や拠点での賑わいを創出し、日常生活に必要な機能を維持していくため、千種生活圏の強みや弱みを踏まえながら基本要素の実現を図ります。

(1) 世代間・地域間の交流促進

子育て世代や高齢者、若者や高校生など、それぞれの世代が気軽に集い交流出来る空間づくりや、地域の活動団体や団体同士が集まり、地域づくりについて話し合える場づくり。

(2) 地域経済活性化と買い物の場の維持・確保

持続可能な地域運営に向けて、地域の中で経済が循環する仕組みづくりにより地元商店の利用促進や新たな需要の喚起など地域経済を活性化し、将来の不安要因である買い物の場を維持・確保。

(3) 地域の魅力向上や情報の発信

地域の魅力を活かしていくことや情報を発信していくことにより観光誘致による交流人口の増加や地域内での交流を促進するとともに地域情報の発信を充実することで更なる賑わいを創出。

(4) 安全安心の拠点

災害に強い拠点として、平時から防災力を高めるとともに避難所としての機能や、大きな災害時には復旧・復興の拠点として機能する施設を整備。

2 拠点づくりに向けた取組

千種生活圏の魅力（強み）や課題（弱み）を踏まえ、生活圏の拠点づくりに必要な取組を整理し、その実現に向けて次の取組を進めていきます。

（１）世代間・地域間の交流促進に向けて

役割／機能	取 組 内 容	実現に向けて
賑わいの場や憩いの空間	地域内の個人や様々な団体の活動の場や情報共有の場づくりと学校や仕事帰り、また休日にふと立ち寄りたくなる憩いの空間づくりを行う。	拠点施設を利用した個人や団体など交流を促進する事業の実施や、拠点施設内での憩いの空間づくりを行う。
地域支えあいの体制	高齢化率が高い千種町において、住み慣れた地域に住み続けるために集落内や集落間、拠点との連携体制づくりを進め、行政や福祉サービスが届かないところでの助けあいの仕組みづくりを行う。	地域包括ケアシステムによる地域支えあいの体制づくりを進めるとともに、高齢者等への相談体制の充実を図る。
地域人材の活躍	千種町に受け継がれる伝統や文化、手仕事のほか、教育・学習や社会活動など、地域の子どもや地域に住む人の学びの機会を提供していく。	拠点施設や学校園などで知識や技術をもつ地域の方が活躍できる場を提供していく。

（２）地域経済活性化と買い物の場の維持・確保に向けて

役割／機能	取 組 内 容	実現に向けて
日常生活に必要な機能の維持	拠点施設における賑わいの場づくりとあわせ、商店街に人が流れる仕組みづくりを進めることで、地域経済の消費中心地として日常的な買い物の場や民間サービスを維持・確保する。	若者や子育て世代の意見を取り入れ、商店街の利用客層の拡大を図るとともに、拠点施設での学生等の利用促進にあわせて商店街への人の流れ創出する。
住民の利便性の向上	サービスのワンストップ化や、サービスの提供者時間帯の改善により、住民が利用しやすい仕組みづくりを進め、拠点への集客を促す。	行政機能の集約・複合化や民間サービスの拠点施設への導入により利便性の向上を図る。
交通環境の改善	拠点エリアと集落を結ぶ公共交通の維持とともに、地域内での支えあいにより集落部と拠点とを結ぶ移動手段を確保していく。また、県境の立地を活かすために道路環境の改善を求めていく。	集落や集落間での連携を強化し、助け合いによる移動手段やサービスの提供を目指す。また、国・県道の道路改良を求めていく。

(3) 地域の魅力向上や情報の発信に向けて

役割／機能	取 組 内 容	実現に向けて
充実した子育て環境	エーガイヤちくさの子育て支援機能を維持していくとともに、子育て世代が子連れで遊べる場所や気軽に休憩できる場所、学びの場を確保していく。	年齢に応じた遊びと学びの機会を提供していくことや、子育て世代と他世代との交流を創出する憩いの場づくりを進める。
魅力ある教育環境	園小中高連携の強化とあわせ、学校園と地域との連携・協力体制を強化し、魅力的なカリキュラムづくりを応援できると体制を整える。また、学生にとって魅力のある学校生活が送れるよう支援していく。	学校と地域との連携・協力体制をさらに強化し、地域全体で応援できる体制を整える。また、授業以外に学生が打ち込めることへの機会を創出する。
風景街道の創造	市が進める日本一の風景街道の創造にあわせ、「どがいじゃろえ地域プラン」構想の実現に向けて取組を進める。	針葉樹を伐採し、広葉樹の植樹を行うなど景観形成事業に取り組む。
地域情報の発信	地域の行事やイベントなど地域内の情報を一元化して発信する体制づくりや、観光案内や観光客の休憩できる場所を備えることで、観光面の拠点づくりを進める。	各種団体等からの情報を一元化していくことや、エーガイヤちくさを候補として、観光案内や観光客が休憩できる機能を備える。

(4) 安全安心の拠点

役割／機能	取 組 内 容	実現に向けて
避難所機能	拠点施設に災害時における避難所としての機能を確保するとともに、避難しやすい環境づくりを進める。	拠点施設の地域の防災訓練での活用や、施設周辺の避難経路の安全性を確保する。
復興・復旧の拠点	災害時におけるボランティアの受入拠点としての機能を確保する。	拠点施設において災害対策本部、ボランティアの受入が機能する体制を整える。

3 取組推進に向けたコンセプト

これまでの委員会での議論やこれからの拠点づくりの取組、拠点施設の整備を通じて、千種町の地域づくりコンセプトの参考例として、次のような内容を検討しました。このコンセプトを今後の拠点づくりを進めていく体制においてさらに磨きをかけ、千種町の強みを最大限に発揮した地域づくりを推進します。

■ 地 域 コ ミ ュ ニ テ ィ の 活 発 化

※イメージ等

生活圏の拠点づくりを進める体制づくりの中で、田舎の良さである地域のコミュニティの強さを世代や団体間を繋げた更に強固で柔軟なものとしていくとともに、生活圏の拠点づくりの土台として、他のコンセプトに基づく取組を効果的に進めていきます。また、少子高齢化が進む中、支えあいの仕組みづくりにより、いつまでも住み続けることができる地域づくりに繋げていきます。

■ 地 域 資 源 の 強 化 ・ 連 携

※イメージ等

千種の豊かな自然環境や充実した既存施設の能力を発揮する取組や連携する取組を進めていくことで、町域外からの人の流れを維持していくとともに、観光拠点の強化や魅力化により、移動途中での情報案内や休憩での立ち寄りを促し、千種町の自然環境や観光資源、農産物屋特産品等のPRに繋げていきます。

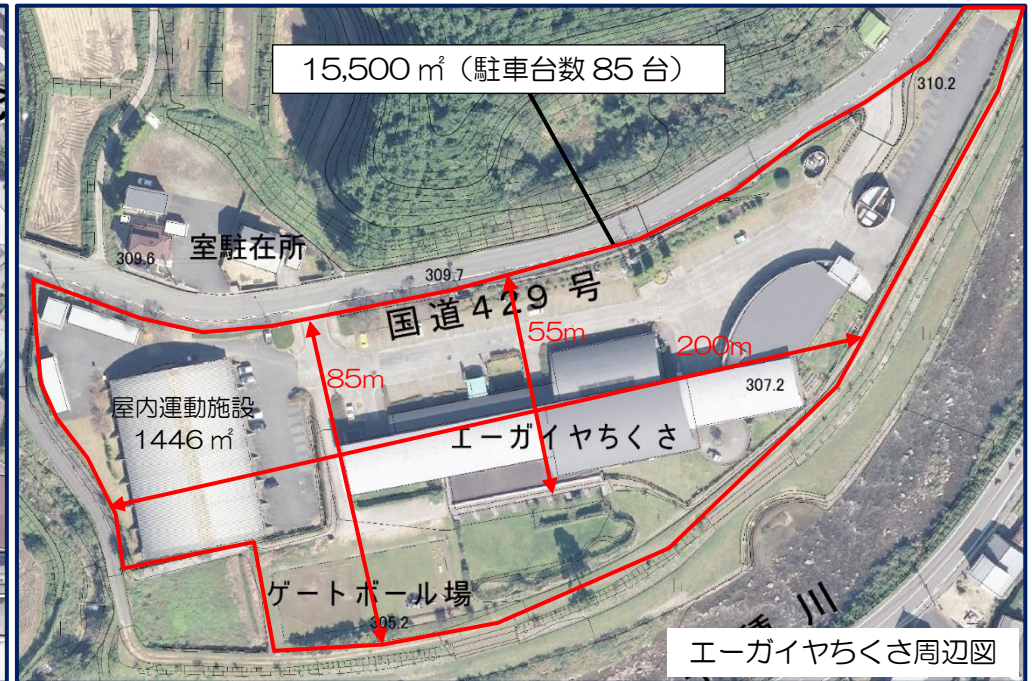
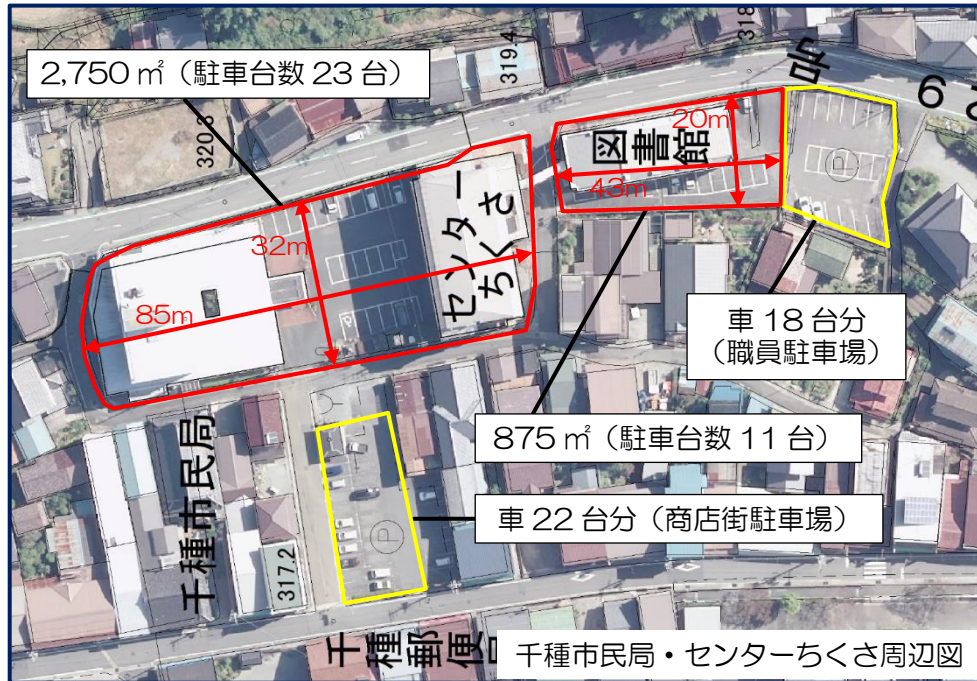
■ 子 育 て ・ 教 育 の ブ ラ ン ド 化

※イメージ等

子育て世代の移住や定住、町域外に出た「ちくさっ子」がまた戻ってきたいと思える環境づくりなど、生活圏の拠点づくりに向けた取組の中で、千種生活圏の強力な強み（魅力）である「良好な子育て環境」と「魅力ある教育環境」をさらに充実し、これを地域ブランドとして地域内外に情報発信していくことに繋げていきます。

V 拠点施設の機能

1 拠点施設周辺と既存施設の現状



< 既存施設の現状 >

施設名	建築年度	構造・階層	延床面積	主な用途
千種市民局	S43	RC 造 3 階建	1471.85 m ²	市民局事務所、会議、宿日直、備品・書類保管、宿日直、サーバー機器等保管 等
センターちくさ	S50	RC 造 4 階建	1476.20 m ²	生涯学習事務所、コース、体操・ダンス、集会・会議、生涯学習事業 等
しきぐさホール	S57	RC 造 2 階建	306.32 m ²	※現在利用なし (1 階部分の一部を駐車場利用)
エーガイヤちくさ	H13・14・16	RC 造 1 階建 ※地下 1 階	4503.75 m ²	保健福祉・社協事務所、子育て広場、デイサービス、通所リハビリテーション、ふれあいサロン (温泉・食事・フィットネス)、診療所、屋内運動施設 等

2 拠点施設の整備方法の比較

生活圏の拠点施設をどのように整備していくことがよいかについて、以下のとおり比較検討を行いました。

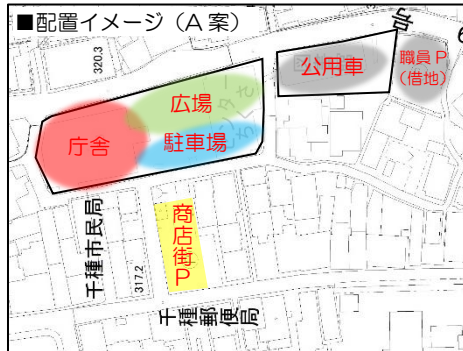
■比較検討案

A 案	B 案
（仮称）千種市民協働センター 整備方法：新設 整備場所：市民局周辺 複合化：千種市民局 保健福祉 C センターちくさ 効果と課題 商店街の中心に拠点施設が位置し、複合化施設となることから、新たな市民間交流・賑わいの創出に繋がる期待が高い。また、住民の利便性の向上と施設維持管理コストの軽減が期待できる。しかし、複合施設に必要な用地面積の確保が困難であること及び保健福祉 C の有効活用に繋がらず、福祉・医療機能が分散 するという課題がある。  行政機能 市民局周辺へ保健福祉 C の福祉・子育て機能を集積。センターちくさの生涯学習・ホール・集会所機能も集積した複合施設とする。	（仮称）千種市民協働センター 整備方法：増改築 整備場所：エーガイヤ 複合化：千種市民局 保健福祉 C センターちくさ 効果と課題 複合化施設となることから、新たな市民間交流の創出に繋がる期待が高い。また、住民の利便性の向上と施設整備および維持管理コストの軽減が期待できる。しかし、複合施設に必要な用地面積の確保が困難であること、商店街・プール・図書館等の隣接する機能との相乗効果の創出に工夫が必要であること、基幹 道路と河川を隔てていることによる非常時の対応に課題がある。  行政機能 エーガイヤ周辺へ市民局機能及びセンターちくさの生涯学習・ホール・集会所の全ての機能を集積。
C 案	D 案
（仮称）千種市民協働センター 整備場所：新設（単独整備） 整備場所：市民局周辺 複合化：千種市民局（行政窓口以外） センターちくさ エーガイヤちくさ 整備方法：大きな整備なし 整備場所：エーガイヤ 複合化：千種市民局（行政窓口のみ） 保健福祉 C 効果と課題 すべての機能を集積する場合までではないが、新たな市民間交流・賑わいの創出に繋がる期待が高い。また、保健福祉 C の有効活用ができ、福祉・医療の拠 点と連携が確保でき、住民の利便性の向上が期待できる。行政機能が従前からみて分散するため、住民への案内等を定年に行う必要がある。  行政機能 消防・防災・まちづくりの機能及び生涯学習・ホール・集会所の機能を除く行政機能をエーガイヤに集積。	（仮称）千種市民協働センター 整備方法：新設 整備場所：市民局周辺 複合化：千種市民局 センターちくさ エーガイヤちくさ 整備方法：整備なし 複合化：なし 効果と課題 市民局機能と生涯学習機能の複合化により、すべての機能を集積する場合までではないが、新たな市民間交流・賑わいの創出に繋がる期待が高い。しかし、市民局と保健福祉の行政窓口の分散が解消されないことが将来わたって続くこととなる。  行政機能 保健福祉 C は現状のまま維持し、市民局とセンターちくさの生涯学習・ホール・集会所の機能を集積・複合化させる。

■比較検討案に対する検証結果

<機能集約型>

○市民局側への集約（A 案）



<効果>

- ・住民の利便性の向上
- ・維持管理費用の低減
- ・交流拠点として賑わいの創出

<課題>

- ・敷地面積が不足し、慢性的な駐車場不足が予想される。
- ・比較的新しいエーガイヤちくさが有効活用されない。
- ・健診等一部の業務では逆にエーガイヤちくさを使用する必要が生じる。
- ・市民局側へのアプローチが悪い。

<結果> 実現困難。効果は高いが、敷地面積・機能面での課題が解消できない。

<機能集約型>

○エーガイヤ側への集約（B 案）



<効果>

- ・住民の利便性の向上
- ・維持管理費用の低減

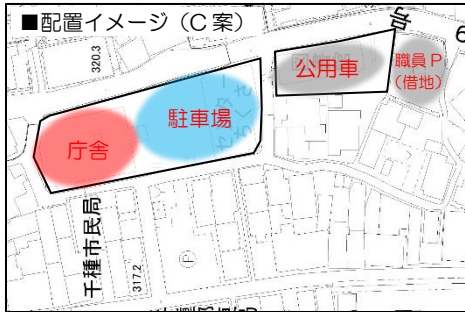
<課題と対応>

- ・敷地面積が不足し、一般利用のホールや会議室の確保が困難
- ・主要道から河川を隔てており、安全安心の拠点として不安がある。
- ・市民局側の用地が未活用となる。また、避難所が減少する。
- ・自治会等が集会所利用する場が失われ、地域コミュニティに影響がある。

<結果> 実現困難。コスト面に優れるが敷地面積などの課題が解消できない。

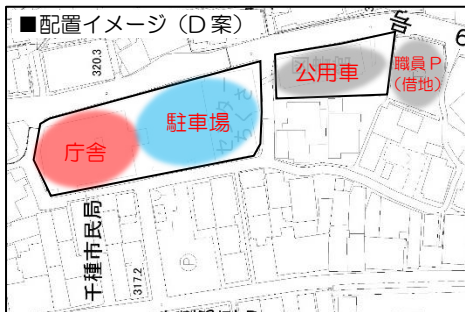
<機能分散型>

○市民局とセンターちくさの集約＋行政手続きの窓口をエーガイヤに集約（C 案）

	<効果> ・住民の利便性の向上 ・維持管理費用の低減 ・交流拠点として賑わいの創出	<課題と対応> ・既存市民局からの機能分散による影響 ・機能の一部移転による商店街の賑わいへの影響
<結果>実現可能。周囲への影響も少なく、効果も高い。優先的に検討を進める。		

<機能分散型>

○市民局とセンターちくさのみ集約（D 案）

	<効果> ・維持管理費用の低減 ・交流拠点として賑わいの創出	<課題と対応> ・将来にわたって行政窓口の分散による弊害が継続する。 ・拠点づくりが施設整備にとどまる可能性がある。
<結果> 実現可能。周囲への影響は少ないが、行政手続きの不便が解消されない。		

3 機能の集約・複合化と分散化（C案）

比較検討案の検証の結果より、既存の現千種市民局、センターちくさを集約・複合化した（仮称）千種市民協働センターをとして整備するとともに、行政機能の一部（窓口業務）をエーガイヤちくさの機能と集約する C 案を採用し、住民の利便性の向上や、賑わいの創出など、拠点づくりの基本要素を達成していきます。

それぞれの役割や機能についてはを次のように整理し、千種生活圏の拠点づくりの取組を踏まえ、取組の核となる拠点施設として活用していきます。

■ 拠点施設の役割と機能の整理

<現状>

センターちくさ

生涯学習事務所、生涯学習、サークル活動
文化ホール、集会所、避難所

千種市民局

地域づくり
(地域づくり・自治会・消防・防災等)
産業・社会資本（産業・建設・水道等）

千種市民局

行政窓口（戸籍・税・医療・年金等窓口）

エーガイヤちくさ

保健福祉センター、医療機関
子育て支援センター、福祉避難所
社会福祉活動の拠点、公共交通の拠点

<整備後>

（仮称）千種市民協働センター

行政機能（地域づくり、産業・社会資本）
生涯学習、サークル活動
文化ホール、集会所
避難所

エーガイヤちくさ

行政機能（戸籍・税・医療・年金等窓口）
保健福祉センター
子育て支援センター、医療機関
社会福祉活動の拠点、公共交通の拠点
福祉避難所

（活用イメージ）

千種市民局の機能のうち、行政窓口の機能はエーガイヤに集約し、それ以外の市民局機能とセンターちくさの機能を集約した（仮称）千種市民協働センターを整備し、個人・各種団体の活動拠点として、連携や情報共有できる場として活用。また、若者や学生の学びや交流の場として活用。

（活用イメージ）

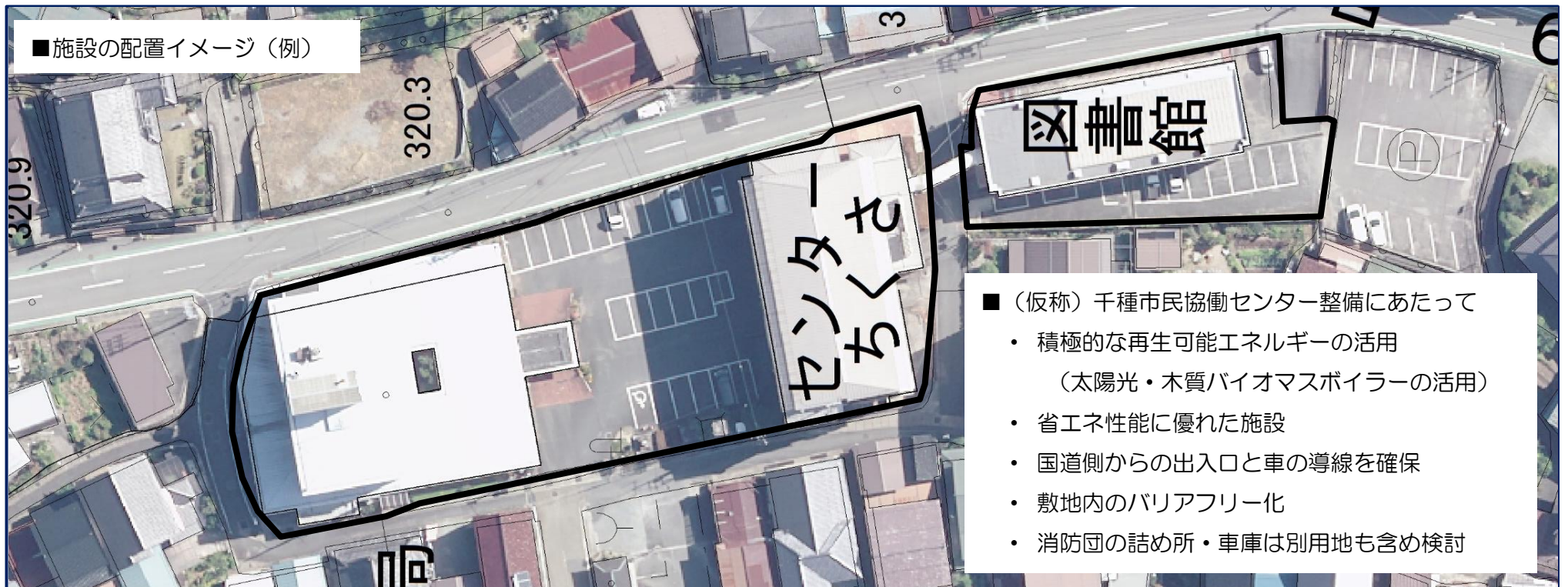
これまでのエーガイヤちくさの活用に加え、千種市民局の行政窓口の機能を加えることで、各種手続きにおける利便性を向上。また、施設のもつ既存機能の有効活用や、観光案内などの観光面での中継拠点としての活用を検討。

4 (仮称) 千種市民協働センターの整備

【第一拠点施設】(仮称) 千種市民協働センターが備える具体的な機能と規模を以下のように想定し、整備を進めていきます。

■敷地内の想定規模

具体的機能	設 備 概 要	想定規模 (㎡)	備 考
本体施設	(仮称) 千種市民協働センター本体、軒・庇	1000	
駐車場・通路	駐車場(概ね 50 台) + 通路等	1800	公用車 10 台含む
屋外附属棟	倉庫、機械室等	100	木質バイオマスボイラー導入検討
緑地その他	緑地(開発面積の 10%) + その他	725	県緑条例
屋外施設 計		3625	



Ⅵ 取組のスケジュール

今後の「千種生活圏の拠点づくり」に向けては、以下のようなスケジュールを想定して取組を進めます。

取組内容		平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
取組推進と体制づくり	本計画の周知と意見交換（タウンミーティング 等）				
	拠点づくり推進の体制づくりに向けた協議				
	拠点づくりの取組と拠点施設の活用に向けた協議				
	拠点づくりの取組推進				
拠点施設の整備	設計事業者の公募・選定				
	基本計画・基本設計・実施設計				
	工事事業者の公募・選定				
	既存施設の解体・建設工事				
	竣工・供用開始				